

§ 日本AKA医学会理学・作業療法士会 ホームページのお知らせ
<http://akaptot.com/>

§ 『重要なお知らせ』

本会におきましては、新型コロナウイルス感染拡大・予防の観点から 2021 年度は会則第 4 条事業 1) ～ 4) のうち 1) 研究発表会、研修及び講習会の開催について、いずれも中止・延期とすることになりました。延期の具体的な内容については情報収集・協議の上決定して参ります。当会は学術団体であり、その主な事業となる学術集会や研修会を開催できないということは誠に遺憾であります。今年度におきましても引き続き技術研修コースや学術集会の参加をお考え、心待ちにされていた皆様のご期待に応えることができず大変心苦しいですが、何卒状況ご理解の程宜しくお願い申し上げます。

§ 第 21 回学術集会（山梨）中止決定のお知らせ

拝啓 新緑の候、会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。
さて、2021 年 11 月 28 日（日）にオンライン開催で準備を進めておりました第 21 回学術集会ですが、先日程行われました当会臨時理事会におきまして、中止されることが決定いたしました。COVID19 の感染拡大が続く中、オンライン開催のための事前収録、開催準備に伴う講師の先生方、スタッフの移動による感染リスクが軽減される見通しが立たないことが大きな要因です。講師をお願いし、準備をされておりました先生方、演題発表を予定していた方、また、学術集会への参加を予定されていた会員の皆様には心よりおわび申し上げます。
今後、代替的に何かを行うかなどを含め、検討していくこととなっております。随時情報をホームページにアップしていく予定ですので、チェックしていただければと思います。
今回はこのような非常に残念な結果となりましたが、引き続き当会の活動へのご理解、ご協力を賜りますよう心よりお願い申し上げます。 敬具

第 21 回学術集会
会長 川野正巳

§ 「研修企画委員会からのお知らせ」

いまだ治まらない新型コロナウイルスの全国的な感染状況および感染拡大予防の観点から、今年度もすべての研修コース（基礎コース、応用コース、フォローアップコース、受験コース、地域技術研修コース、紹介コース、指導者研修コースおよび指導者伝達研修コース）は、協議の結果、遺憾ではありますが、すべて中止となりました。会員の皆様には誠に申し訳ございません。ご理解の程、何卒よろしくお願い致します。

研修企画委員長 西菌博章

§ 令和3年度 認定試験（AKA - 博田法）の見通しについて

これまで認定試験は令和元年度と2年度が中止となりました。4月現在では第4波の新型コロナウイルス感染拡大が全国的に始まっています。このコロナ禍で今年度の認定試験の実施は見通しがついていません。

認定試験の実施要件としてはワクチン接種の普及と感染拡大が収束するまでは、特に我々、医療職である立場も踏まえると「3密」を守る慎重な対応が必要です。そのため実施はまだ難しいと考えております。加えて認定試験を実施するには、実技練習のための研修会が地域でも全国レベルでも再開できるようになることとセットで考えています。試験準備の機会が与えられないまま、試験だけを実施することはできません。

上述のことから令和3年度の認定試験は現状では計画していません。研修企画の事業再開と合わせて今後の感染状況が変わってくれば検討していきます。今後の最新情報についてはホームページでご確認ください。

認定委員会 井端 康人

§ 資格認定制度の一部改正等について

① 準指導者の資格は消滅し、その有資格者は指導者助手の資格に変更

令和2年に「AKA-博田法標榜等許可基準」の一部改訂に伴い、当会の「準指導者」の資格認定が令和2年4月1日付けで消滅しています。これによって準指導者の有資格者は指導者助手に変更となっています。この通達準指導者の有資格者には個別に周知を済ませているところですが、このたび会員全体に改めて資格認定の一部改正についてお知らせする次第です。

② 資格認定制と資格更新実施要領の一部改訂（参照：会誌 Vol.13 2020）

上述①の「準指導者」の資格認定の消滅に伴い、この名称を削除する必要から資格認定制とその資格更新実施要領の改訂が必要となりました。すでに当会の会誌 Vol.13 2020 にその改訂版が掲載されています。

この資格認定制度の改廃については令和2年に理事会の議を経ておりますが、「総会において承認する」この手続きを欠いております。

本来なら昨年度の総会においてこの手続きが必要でした。この手続きを欠いたことにお詫び申し上げます。

事後になります。本年の総会において対応させていただきたいと思っております。皆様のご理解をお願いいたします。

③ 上級指導者の資格認定制度と資格更新実施要領の整備（今後の課題）

この有資格者はまだ誕生していませんが、当会のホームページには「上級指導者」の資格名称について明記されています。資格制度の中で最上位の資格となります。

しかし、その資格制度と資格更新実施要領については、まだ明記できていません。ホームページの内容と整合性を持たせるためにも上級指導者の資格認定制度と資格更新実施要領について、会員の皆様に公表できるように現在、詳細を検討中です。

認定委員会 井端康人

§ 令和 3 年度 認定資格更新期間延長のお知らせ（認定委員会）

昨年度（令和 2 年度）は当会事業の中止が決定されたため、認定委員会では単位取得が行えない状況を考慮し資格更新期間の自動延長を行いました。

今年度につきましても各種事業の中止が決定されたため前年度に引き続き更新期間の自動延長を行います。今回の延長については各自手続きの必要はありません。

～ 記 ～

対象者は以下の通り自動的に 1 年間の延長が付与されます。

ただし更新期間附則により令和 3 年度を資格休止として申請している場合は付与されませんのでご注意ください。

- ① 対象：令和 3 年度に会に籍を置いている有資格者
- ② 令和 3 年度は更新期間 5 年に含めず単位取得期間を延長し令和 2 年度の延長とあわせ更新期間を 7 年間とする
- ③ 令和 4 年度も事業中止が継続する場合は再度更新期間の検討を行う

参考）更新期間附則（会誌 Vol. 12 2019）

次の場合は所定の手続きにより更新期間を延長することができる。

1. 傷病等により会の活動へ参加が困難な場合
2. 女子の妊娠、出産については係る期間
3. 風水震災、その他理事会が認めた事由で会の活動が困難な場合

上記で期間延長を希望する場合は延長事由を記載した書類を添え認定委員会へ申し出ること。

注 1）延長期間は年度毎とし、申請が年度途中であっても当該年度の単位は認定されない。

2）延長期間を終了し復帰する場合は速やかに認定委員会へ申し出ること。

§ 動画配信サービス開始のお知らせ

動画配信担当 赤木 智（近畿ブロック）

ご存知の通り、新型コロナウイルスの感染拡大・予防の観点から当会の主な事業である研修会の開催が困難な状況が続いています。会員の皆様には大変心苦しい思いをさせていることと存じます。

今回、AKAPTOT 会学術集会の動画を YouTube で限定配信していく運びとなりました。プライバシーの問題もあり全てを配信することは困難ですが、皆様の日々の臨床の助けになればと思いますので、ぜひご利用ください。

以下視聴方法を案内します。

- 1、日本 AKA 医学会理学・作業療法士会ホームページにアクセス（<http://akaptot.com/>）
- 2、会員専用ページにログイン
- 3、その他の項目の動画配信をクリック
- 4、演題をクリックすると動画が視聴できます。

配信開始時期は 2021 年 6 月 1 日から行います。

配信スケジュールは以下の通りとなっています。

配信時期	AKAPTOT 会学術集会
2021 年 6 月 1 日～	2019 年 第 20 回学術集会（大阪） AKA－博田法・ANT 未来（明日）への道標
2021 年 9 月 1 日～	2018 年 第 19 回学術集会（愛知） 臨床力を高める
2021 年 12 月 1 日～	2017 年 第 18 回学術集会（山口） AKA－博田法・ANT と動作
2022 年 3 月 1 日～	2016 年 第 17 回学術集会（福岡） 専門職として存続するために～評価と治療の妥当性～
2022 年 6 月 1 日～	2015 年 第 16 回学術集会（神奈川） 運動療法と関節の機能

§ リレーコラム（第 21 回）

『これまでを振り返って』

近畿ブロック
ひまわり整形外科
赤木 智

平成 19 年に理学療法士になり様々な先生の指導のお陰で平成 25 年に認定療法士・平成 27 年に指導者助手・平成 31 年に指導者試験にそれぞれ合格することができました。理学療法士としても AKA の指導者としてもまだまだ未熟ですが、今回の私のコラムでは理学療法士になってどのように AKA と触れ合い、勉強してきたかを思い出しながら書きたいと思います。このコラムが皆様の技術向上やモチベーションの一助になればと思います。

私の養成校は、土佐リハビリテーションカレッジという高知県の学校でした。どちらかというと田舎で、場所によっては携帯電話の電波もつながらないような学校で、その分勉強にしっかり集中できる環境だったと思います。しかし、勉強はどちらかというと苦手な方で特に運動学の成績はかなり悪く単位を落としたこともあります。

そのため、いざ理学療法士になっても運動学に対して苦手意識は強く AKA を始めようとしたきっかけも技術の中に運動学という単語が入っているからなんとなく勉強してみようといった気持ちで当時の上司に連れていかれるがまま地域技術研修会に参加した記憶があります。

そのため、私は当初 AKA も博田先生も全く知らない状態でこの技術をスタートしました。

初めての研修会は、正直全然分かりませんでした。「姿勢をしっかりと作って。」「指先の力を抜いて。」と言われ、言われた通りに力を抜くと「さっきよりよくなった。」と指導されるのですが関節が動く感覚が全く分からず、手ごたえが全くないまま研修会が終わってしまいました。

とりあえず知識が足りない部分もあるかと思い、研修会から帰って AKA の教科書を購入して読んだり、触診の勉強をしてみたりして患者様に技術を使ってみました全然うまくいく感覚はありませんでした。

その後、年に何回か地域技術研修会に参加していたのですが今一つ上手くなっていく感覚はあ

りませんでした。調べていくうちに認定制度があるのを知り、何となくで勉強するよりは目標があった方がいいのかなと思い資格をとることを目指して勉強してみることにしました。2〜3年目から AKA の学術集会に参加するようになりました。学術集会では AKA の基礎知識はもちろん、「物理医学とリハビリテーション」や「運動療法の目的」「機能障害の一次障害・二次障害」「過用・誤用・廃用」といった学校でも習ったことを再度臨床に当てはめて考える必要性・重要性を学べたことが当時の私にとって日々の業務の中で考えるべき事柄を整理するのに役立った覚えがあります。

平成 22 年に大阪で集中して研修が受けられる基礎コースを受講する機会がありました。基礎コースでは、AKA の全技術が学習できるためここにきてようやく全ての技術のイメージがなんとなくですができてきました。この頃に指導された内容を少しでも覚えて帰りたいと思い、各技術の一つ一つまとめた私なりのマニュアルを作成しました。これは研修会に行く度に修正しながら現在でも使っており、私の AKA の勉強の基盤となっています。

認定療法士になるまでは主にこうした勉強方法で試験対策をしてきたと思います。

認定療法士試験に合格できた時、うれしかったのですが同時に次の段階である指導者助手への道のりがかなり遠く感じていました。臨床現場でもまだまだ安定して納得できる治療効果を出せていない気がしており、それが技術なのかあるいは臨床での使用法が間違っているのか分からず（今

思うと両方だったと思います。）、研修会に行っても急に技術が上達するわけでもなく、周囲に相談できる相手もおらず正直自分一人での学習方法に限界を感じていたと思います。

どうしようかと考えたとき、実際に AKA を使っている現場を見てみたいと思い、自宅に一番近かった AKA 指導医のひまわり整形外科の平野裕司先生に勇気をだして見学をお願いしてみました。百聞は一見に如かずとはよく言ったもので患者を診断し、AKA をどう使うかの流れを見学できたことは当時の私にとって知識面・技術面共に整理できた記憶があります。その後、月に一回程度臨床見学にお邪魔しその都度技術面や当時担当していた症例で分からないことを平野先生に相談しながら一年近く通う日々が始まりました。今思うとこの期間が私にとって臨床能力が急激に伸びた時期だと思います。その後、縁あってひまわり整形外科に入職し技術を高めていくことで指導者助手になることができました。

指導者になるまでの 2〜3 年は正直かなりしんどかったです。博田先生の前では今まで私がかかしてきた部分をピンポイントで指摘され、そこだけ修正できればいいのですが元々あまり器用な方でもなく一つ修正すると他のところが悪くなり指導されればされるほど上手くできなくなっていく自分がいました。そんな状態が、しばらく続きこの時はかなり悩みました。

悩んだ挙句、今まで培った技術を一旦忘れ本当に一から再構築するつもりで研修会に参加するようにしました。研修会で学ぶポイントも一つか二つに絞り、それだけを持ち帰るつもりで参加していきました。そうやって確実にできる部分を持ち帰って更に練習して精度を高めていくと、全ての技術が同時に向上していく実感がありなんとか指導者試験に合格することができました。

振り返ってみると、初心者の頃から今でもずっと同じことを言われ続けています。ただ、同じことでもどれだけ深く掘り下げていけるかが技術の向上につながるのだと思います。AKA はやはりとても難しい技術で少しずつしか上達しません。たった一人で技術を磨くのは精神的にかなりキツイと思います。技術を高めていく過程でどんどん知り合いの先生が増えていくことと思います。私も指導者助手になったぐらいから徐々に知り合いの先生が増えていきました。モチベーションを保つためには、そういった先生方と互いに刺激しあいながら高めていくことも重要だと思います。なかなか博田先生のようにとはいきませんが昔対応できなかったことが対応できるようになると成長を感じることが出来ます。技術を高めていくことで見える臨床もあると思います。私自身、理学療法も AKA もまだまだ極めたわけではありません。研鑽していくこ

とでまだまだ伸びる可能性を感じることができます。こんな状況ではありますが私も日々精進して頑張っていきます。皆さんも頑張って互いに高めあっていきましょう。そして少しでもいい臨床家になれるよう頑張しましょう。

§ 都道府県別会員数 1020名（令和3年4月26日現在）

北海道	7	青森	1	秋田	6	岩手	4	宮城	5	山形	16
福島	7	茨城	5	栃木	35	群馬	11	埼玉	32	千葉	47
東京	54	神奈川	106	新潟	1	富山	2	石川	1	福井	2
山梨	139	長野	6	静岡	21	岐阜	7	愛知	27	三重	1
京都	21	滋賀	9	奈良	14	和歌山	11	大阪	107	兵庫	27
岡山	10	広島	15	島根	5	鳥取	11	山口	46	徳島	25
高知	13	香川	19	愛媛	11	福岡	54	長崎	31	熊本	13
大分	13	宮崎	2	鹿児島	10	沖縄	10				

§ 日本 AKA 医学会理学・作業療法士会

事務局 E-mail : aka-pt@dream.ocn.ne.jp（お問合せは E-Mail でお願い致します）

（編集後記）

はじめに、この度入会されました皆様、ご入会を誠にありがとうございます。「日本 AKA 医学会理学・作業療法士会」は国内・外の理学療法士・作業療法士に対する AKA-博田法の普及・発展を目的として 1999 年に発足され、22 年が経過しています。これまで学術集会や各種技術コース、認定試験、指導者の育成・認定等様々な事業を行っています。会員の多くは自分の手で患者さんを治したい、まず impairment（機能障害）をしっかりと治療したいという志を持った『臨床技術屋』の集団です。今後とも末永く宜しくお願い致します。

この一年余り、世界中の皆さんが新しい生活様式で我慢を強いられた期間であったことと存じます。本当に頑張りました！・・・と希望的観測の過去形ではじめてみましたが…、原稿を用意しているこの段階では、とても残念で悔しいのですが今年度も当会事業を見送る形となっています。この間、理事会において会員の皆様に対して当会事業など様々な件について多くの議論や検討をしてまいりました。山梨での第 21 回学術集会も川野会長を中心に準備委員の方々が約 2 年にわたり web 開催も視野に入れつつ準備を進めて頂きましたが、第 4 波の襲来や様々な問題もあり已む無く中止することとなりました。会員の皆様には大変申し訳なく感じています。そんな状況ではありますが、少しでも会員の皆様に還元できるものはないかという議論から、動画配信メンバーの先生方のお力を得て個人情報等の問題のない範囲で過去の学術集会の動画を配信することになりました。近年入会された方は勿論、実際にご参加下さった方々も復習の意味でご利用下さいますととても嬉しく思います。今回のリレーコラムは近畿ブロックの赤木先生が執筆して下さいました。AKA との出会いから、取り組んでいく中での苦労や工夫、各認定試験受験までの流れなど皆さんにもとても参考になるであろう内容かと思います。コロナ禍では実技研修等は困難ですが、AKA-博田法第 2 版や実技 DVD（いずれも医歯薬出版）、上述の動画配信などを利用して少しでも研鑽して頂ければと存じます。しばらく困難な状況は継続しそうですが、AKA-博田法・ANT を用いてセラピストとして患者様により有効な診療を提供して頂きますよう祈念しております。まずはご自身のお身体を専一の程、ご自愛くださいますよう。